ＰＴＡだより

第43号発行
富士北稜高校ＰＴＡ
編　集
ＰＴＡ広報委員会

第七十一回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会石川大会に参加して

令和四年度ＰＴＡ会長　土屋　元紀

皆様こんにちは。

令和四年度ＰＴＡ会長を仰せつかりました土屋元紀と申します。歴代会長や本会役員が培った伝統に恥じないよう、一年間子供達のために精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

第七十一回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会石川大会が八月二十五日(木)・二十六日(金)の二日間にわたり石川県金沢市で開催されました。全国から約五千人の教職員、ＰＴＡの代表者が参加する中、本校からは塩入由里校長先生と私二名で参加して参りました。開会式にあたり、石川大会のスローガン「輝く未来への礎～親から始める新時代の教育～」が発表され、一日目の全体会、二日目の分科会と活発な意見交換が行われました。

一日目の全体会は、文部科学大臣、石川県知事、金沢市長などの来賓参列による盛大な開会式から始まり、基調講演では、内閣事務官、浅野大介氏による「未来の教室を構想する」と内閣府審議官、合田哲雄氏による「教育ＤＸ時代の子供たちの学び～学校は何のためにあるのか～」という演題の話を聞くことができました。二人の氏は『少子化が進み、社会が劇的に変化する「Society、5.0」、「アフターコロナ」と言われる昨今の時代にあって、一斉授業の限界、教師不足、地域や家庭の教育格差等を始め、多くの問題も表面化しています。学校においてもＩＣＴ活用、探究学習、大学入試等、様々な改革に着手していますが、テクノロジーを始めとする社会の急激な変化に対して、学校教育は追いつけないといった印象です。特に、学習意欲の質の向上や加速的に進展する情報化への遅れは、我が国の経済成長を阻害する要因とも指摘されています。一昨年のコロナ禍での学校休校中には約半数の高校でオンライン授業が行われ、その利便性が明らかになったことから、急遽ＧＩＧＡスクール構想が前倒しされ、ＡＩを利用した自学自習の効果も期待されているところです。』と話されました。氏の言葉から、コロナによる働き方改革が社会に浸透しているなか、教育現場でも改革が求められる状況になってきていると感じました。人は変化に対して、すぐに受けとめられず学生、教師、保護者が共に教育環境の変化に順応できるよう、より一層の連帯が必要になると思います。変革には、必ず反対因子が発生しますので、ＰＴＡのあり方を繋ぐことの大切さを痛感いたしました。国、文部科学省が進む方向は、知識の再構築をしながら付加価値を生み出す人材育成のための「未来の教室、ＥｄＴｅｃｈ、ＳＴＥＡＭ教育」を切り口に、新時代の学校教育のあり方について、オンラインやＡＩ等のＩＣＴを活用しつつ、個別最適化、協働的な学びをどのように実現しようとしているのかについて学ぶことができました。官僚の理想と現場教員の格差を認識し、子どものために何をするのかを改めて保護者が、考え、理解、容認し、信じて認めて任せるためのＰＴＡの必要性を感じました。

二日目の午前中は、石川県立金沢二水高等学校の合唱と、石川県立小松明峰高等学校の吹奏楽を楽しむことが出来ました。全国レベルのパフォーマンスは、聴く人および見る人を引き付けて記念講演では、大手コンビニエンスチェーンのファミリーマート顧問、澤田貴司氏による「やりたいことをやる」という演題の話を聞くことができました。氏の経歴はすばらしく、伊藤忠商事株式会社では海外貿易と商社経験にて企業買収に携わる。その後、ファーストリテイリング(ユニクロ)に入社し、フリースの爆発的なヒットにつながる事業戦略立案等に従事。二〇一六年にファミリーマート社長に就任と日本の名高る企業に尽力された方でした。氏の現場でのエピソードを交えた語り口調は聴く者を飽きさせず、限られた時間ではありましたが大変貴重な講演で感激いたしました。二日間にわたり塩入由里校長と参加して参りました今日の石川大会では、学校とＰＴＡの結びつきの重要性を再認識できた非常に有意義な大会でした。

来年の第七十二回全国高等学校ＰＴＡ連合大会は、宮城での開催が決定しています。ＰＴＡ活動への参加により、学校の先生方との情報交換やこのような機会等、多くの貴重な経験が保護者の皆様におかれましては是非ＰＴＡ活動への活発なご参加をよろしくお願い致します。

現代版「アリとキリギリス」

校長　塩入 由里

本校への勤務も2年目となり校長室の大きな机も少しずつ違和感がなくなって参りました。このコロナ禍での2年間、なかなか保護者の皆様にご来校いただき、お子様の学校での様子をご覧いただく機会の少ないことを非常に残念に思っております。今後は感染状況を考慮しながら皆様にご協力いただく機会を増やして行きたいと考えております。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

さて、8月25、26日に石川県で開催された全国高等学校ＰＴＡ連合会大会へ会長の土屋元紀様とともに参加して参りました。コロナ禍での開催となりましたが、感染対策も徹底され全国から多くの方々が参集しました。各界の著名な方の講演会はどの内容もとても多くの気づきをいただきました。その中のお一人がお話しされた内容から、子供たちが生きるこれからの社会を考える上で、とても参考になる「アリとキリギリス」の話題を皆様にも紹介します。

イソップ寓話の「アリとキリギリス」は皆様もよくご存知だと思います。簡単に内容を紹介しますと、冬に備えて夏の間にせっせと食料を蓄えていたアリと、夏の間は楽しく好きなことをして過ごし、冬を迎えた時に何の蓄えもないキリギリスを描いた童話です。「働き者のアリが善で、楽天家のキリギリスが悪」であり、「日頃からアリを見習って計画的にせっせと働きましょう。」という子供たちへの人生の教訓です。しかし、その解釈が現代では必ずしも教訓にはならないのではないか？という内容でした。この内容をヒントに私なりに改めて現代版の解釈を試みてみました。

この「アリとキリギリス」は、戦後の日本社会のような、戦争で多くを破壊された状態から、国民全体がまっしぐらに豊かな生活を目指して働く高度成長期では、素晴らしい教訓になります。実際に日本はそのようにしてここまで発展してきました。

しかし、現代は、生活も豊かになり、成長社会ではなく、成熟社会と言われる時代です。

それに加え、産業や経済の大きな変革期をも迎えています。アリのように、せっせとわき目もふらず働いているだけでは、社会の変化の必要性に気づけず、新しい時代への変革を担うことができないかもしれません。キリギリスのように好きなことを続けることによって身についた、個性や創造力が生活の糧になることも、ひいては社会の変革を担う力になることもある時代です。また、リモートワークができる現代では、生まれた土地に住み続けなくても、住居も転々と変えることによって、キリギリスも冬でも暖かい場所で楽しく過ごすという柔軟な選択もできるでしょう。すなわち、自分らしい生き方を目指し、個性や創造力を磨き、自分の適した環境や場所に身を置き、幸福な未来を創造していく、そんなキリギリス的人材を必要とする時代なのではないでしょうか。

そうは言っても、やはりコツコツと働く(勉強する)ことが人間の基本的な生き方であることも変わらないはずです。アリ型か？キリギリス型か？の二者択一ではなく、これからは、アリとキリギリスのハイブリッド型を目指すこと、好きなことに熱中して豊かな個性や創造力を身につけ、コツコツ仕事も勉強もします！というタイプの人材を目指す、というところがふさわしいのではないかと思います。

しかし、皆がそうした器用なハイブリット人材になれるとも限りません。より解釈を発展させるなら、これからの未来は、アリ型、キリギリス型、ハイブリット型、またカメレオン型、モグラ型…など多様な個性や生き方を認め合い、それぞれが活躍できる社会へ変化していくべき！ということだと思います。

長い前置きになりましたが、着任以来、スローガンとして掲げてきた「もっといい自分を創ろうよ」そして自分と社会の「もっといい未来を創ろうよ」という言葉を、ぜひ保護者の皆様にも、もう一度心にとめていただきたいと思います。アリもキリギリスもカメレオンも…誰もが個性を活かし、認め合い、幸福に暮らす社会を創っていくことは、未来を生きる生徒たちのために、私たち大人も全力で取り組むべきことだと思います。

私は校長として、生徒たちが生きる幸せな未来創りのため、力足らずではございますが、全身全霊をかけて職務に当たる所存でございます。今後とも保護者の皆様のより一層のご協力、そしてご指導をいただきたくお願い申し上げます。

令和４年度　県高Ｐ連定期総会に参加して

PTA副会長　梶原　夏代

本年度ＰＴＡ副会長を務めさせていただいております梶原夏代と申します。よろしくお願い致します。

この度こちらの役職をいただき、何かお役に立てることはないかと思いましたが、コロナ禍であり行事も行われないことが多い中、5月に3年ぶりの集合形式で県高Ｐ連定期総会が開催され、参加させていただきました。内容は、令和3年度事業及び決算報告について、令和4年度県連役員の承認について、令和4年度活動方針について、令和4年度事業及び予算について、令和3年度感謝状贈呈者の承認についてなどでした。昨年度は書面決議やｗｅｂ会議がほとんどのようで、思うような活動ができない中でも、事業報告や決算報告を伺うと、どの内容も子供達のためになることを考えられており、ご計画されて、昨年度県高Ｐ連宮川会長をはじめとする役員の皆様が陰ながらご活躍されていたことを知りました。改めて、ＰＴＡの在り方や役割を考えさせられる総会で、参加できたことが自分自身の何物にも代えがたい経験となりました。

事業報告書の中に「ヤングケアラー」「フードバンク」という言葉がありました。コロナ禍で、人とのコミュニケーションがとれない中、こうした様々な現状もあります。今年度も昨年度同様に思うような活動ができていない状況にありますが、先生方や土屋会長をはじめとする役員の方々、そして多くの保護者の方々のご協力をいただき、学校、ご家庭、さらには地域が一体となり、子供達が充実した学校生活を送れるような活動と見守りをしていけたらと思います。

ＰＴＡ副会長という役職をいただきましたが、活動の場も少なく、残り半年間となりますが、皆様と楽しく、子供達のため、北稜高校のために努力していきたいと思っておりますので、至らない点等多々ございますが、ご指導、ご協力のほどよろしくお願い致します。

つなぐ－学び、行動するPTA

教頭　中田　秀樹

今年度、本校に赴任いたしました、教頭の中田秀樹です、どうぞよろしくお願いします。今回、学校代表として過日行われました「第68回関東地区高等学校ＰＴＡ連合会」へ、土屋元紀ＰＴＡ会長とともに7月9日(土)10日(日)の2日間、参加してまいりました。1日目は、パシフィコ横浜会議センター会場において、相模原中等教育学校によるギター演奏に始まり、厚木高校ダンス部がオープニングを飾り、会場を盛り上げてくれました。高校生アトラクション後、開催式・大会宣言、増田明美さんの記念講演が行われ、2日目の分科会は、オンライン配信で実施するなど、コロナ禍ならではのハイブリット方式の開催でした。

今回の神奈川大会のメインテーマは「つなぐ－学び、行動するＰＴＡ」です。新型コロナウイルス感染症が終息していない状況下の中、子どもたちの健全育成を取り巻くさまざまな環境の変化が一層顕在化し、課題解決に向けた取り組みが待ったなしの状況であります。特に、人と人との「つながり」が脅かされてきたことを鑑み、このメインテーマの成す意義の説明がされました。また、「つなぐ」には、関東地区7県すべてのＰＴＡを「つなぐ」、第一回山梨大会から始まったＰＴＡ活動を過去から未来に向けて「つなぐ」、そして中止となった過去2年間(昨年度は山梨大会)の大会開催に向けて尽力された思いを「つなぐ」という、3つの思いが込められたテーマであることも紹介されました。

大会宣言文は、次の通りです。

一、個性を尊重して、その能力を伸ばし、豊かな人間性と創造性を備えた人材の育成を支援する。

一、夢の実現に向けて主体的に進路を選択し、社会に貢献できる青少年の育成を支援する。

一、命を大切にし、多様性を尊重できる、心豊かで思いやりのある青少年の育成を支援する。

一、家庭が学校・地域と連携してその教育力を高め、青少年の生きる力を育む教育を支援する。

一、常に目的意識を持ち、継続的に学び、主体的・協力的に行動するＰＴＡの活動を推進する。

記念講演では、スポーツジャーナリストであり、大学教授でもある、増田明美さんによる「自分という人生の長距離ランナー」をテーマに、アスリートとしての体験・経験などから、挑戦し続ける姿勢や学校・家庭での生徒・お子さんの接し方など、さまざまな気づきやご示唆をいただきました。講演の中で、増田さんの好きな言葉で、『論語』に「知之者、不如好之者。好之者、不如楽之者(これを知る者は、これを好む者に如かず、これを好む者は、これを楽しむ者に如かず)」という言葉を紹介していただきました。

略して「知・好・楽」(ち・こう・らく)とは、「何事をやるにしても、知っているだけの人より好きである人が勝っており、更に好きだけの人より楽しむ人が勝っている。つまり何事も楽しんでやる人には、かなわない」ということです。スポーツについていえば、先ずスポーツが好きになることです。好きになって楽しくなれば自然と沢山練習をするようになるし、沢山練習をすれば上達もします。最初から上手と云われる人はいないですが、好きになって楽しくなれば自然と上手になるということです。近年のアスリートも卓球界では伊藤美誠、大リーガーの大谷翔平など、コメントの節々に「楽しかった」の言葉があふれており、共感できる有意義な時間を過ごすことができました。

2日目は、分科会において「青少年のゲーム・インターネット依存の現状と治療」についてと本県の甲府東高校による発表「家庭教育とＰＴＡ」を視聴することができました。

今大会を通し、各学校のＰＴＡ活動を学んだことで、改めて学校と家庭・地域との連携の重要性を学ぶことができました。これからも、「未来の創り手」である生徒たちの学びの環境が充実するように、保護者の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

【令和４年度　ＰＴＡ役員】

会　長	土屋　元紀	３年次
副会長	梶原　夏代	３年次
副会長	堀内　進	２年次
副会長	梶原　稔	１年次
常任理事	勝俣　賢一	３年次
ＰＴＡ顧問	高村　佳江	３年次
ＰＴＡ理事	杉本　利恵	３年次
ＰＴＡ理事	宮野　文江	３年次
ＰＴＡ理事	古屋　貴子	２年次
ＰＴＡ理事	藤井　智美	２年次
ＰＴＡ理事	堀内　昌治	２年次
ＰＴＡ理事	小林　沙織	２年次
ＰＴＡ理事	渡邊美由紀	１年次
ＰＴＡ理事	渡邊　貴子	１年次
ＰＴＡ理事	渡邊麻由美	１年次
ＰＴＡ理事	登喜祐香里	１年次
PTA理事・監事	石川美也子	２年次
PTA理事・監事	三浦　茂	１年次

【ＰＴＡ今後の主な予定】

10月18日(火)～19日(水)	北稜交通安全通学指導協力
10月17日(月)～11月 7日(月)	スクールフードドライブ（本校）
11月28日(月)	フードバンク箱詰め作業（本校）
令和5年 2月14日(火)	第３回ＰＴＡ理事会(本校)「ＰＴＡ行事の反省、ＰＴＡ諸会費および行事について他」
３月１日(水)	第17回　卒業証書授与式
	ＰＴＡだより 第44号　発行予定

高Ｐ連と安全互助会のホームページ

https://ymn-kprn.main.jp

今後の新型コロナウイルスの情勢により、予定が変更になる場合があります。ご承知ください。

★お知らせ★

今年度の本校フードドライブ
期間：10月17日～11月7日
収集後の寄付先
特例認定NPO法人
富士の緑とフードサポート
※後日、詳細を連絡します。ご協力をお願いいたします。

令和４年度 本校ＰＴＡ定期総会に参加して

ＰＴＡ常任理事　勝俣　賢一

私は令和４年度ＰＴＡ役員に選出され、４月29日にＰＴＡ定期総会に参加しました。まず開会の言葉から始まり、ＰＴＡ会長が挨拶を行いました。

その後の校長挨拶では、本校の教育目標である「個性および能力の伸長に努め、生徒一人一人の進路実現を図る」「地域に貢献できる人材を育成する」の実現のため貴重なお話をいただきました。

議事においては、議長選出の後、令和３年度事業報告が行われ、続いて令和３年度決算報告と会計監査報告を行いました。令和４年度本会役員については、本会役員報告、承認の後新本会役員紹介、新ＰＴＡ会長による代表挨拶、事務局員紹介が行われました。この後、議長が交代し、令和４年度事業計画、令和４年度予算計画が承認され、その他においては、ロータリー使用についての報告が行われました。最後に議長が降壇し、新ＰＴＡ会長から前年度ＰＴＡ役員に感謝状の贈呈が行われました。

３年次主任の太田先生が、入学から卒業まで同じ生徒と３年間過ごすのは、初めてで感慨深いと伺いました。３年生の子を持つ親として、その言葉に嬉しく思い、常任理事を引き受けさせて頂きました。

今現在、新型コロナウイルスが非常に蔓延し行事の中止等を余儀なくされています。そんな時代を生き抜いている北稜の生徒達には、人生一度しかない青春を楽しんでほしいと心から願っています。令和４年度ＰＴＡ役員の方々と、理解とご協力を得ながら、今年度ＰＴＡ活動に取り組んでいく事で、富士北稜高校発展の一助となれば幸いです。

第19期生入学

なかなか収まらない新型コロナ禍、４月８日に第19回入学式が１９４名の新入生を迎え実施されました。式は保護者のみの参加で滞りなく粛々と挙行されました。真新しい制服に身を包み新入生を代表して瀧本海大さんが、「私たちの足跡が、本校の新たな歴史として刻まれていくことへのプレッシャーや、これからの学校生活など不安や心配がありますが、先生方、先輩方と共に、本校の生徒としての自覚を持ち、明日に向かって頑張っていきたい。校訓のもと学習やクラブ活動に励み、何事にも前向きに全力で取り組みたい」という内容を、新入生の初々しさの中、落ち着いて力強く宣誓しました。

入学式にあたり、本校塩入校長先生より「自分たちが社会を変革するという強い使命感を持ってほしい。身の回りの社会の課題を発見し、考え、仲間と協力し、その課題を解決していく主体的な行動ができる人間になってほしい。こうした力をこの高校生活３年間で蓄えてほしい。」そして最後に、「新しい幸せな未来づくりの大きな原動力となってほしい。」と生徒の高校三年間での人間的成長を期待する熱いメッセージを新入生に送りました。

本校を選び入学したすべての新一年次生を心より歓迎します。これからの三年間、本校の教育方針をしっかり理解し、校長先生のメッセージを意識して活動し、卒業時には主体的な行動ができる社会人として、母校となる富士北稜高校をあとにして欲しいと思います。

生徒会指導部より

生徒会指導部主任　植村　映二

過日行われた紅稜祭は昨年に続き河口湖ステラシアターでの開催となりました。新型コロナ感染症を考慮し、十分な対策をとっての開催でした。また、今回は保護者の皆様にお子様の活躍をご覧いただきたいという思いで、制限付きではありましたが保護者席も用意いたしました。お陰様を持ちまして、天候にも恵まれた素晴らしい紅稜祭を開催することができました。中でも、紅稜祭のスタートを感動で包み込んでくれた書道部のパフォーマンス、吹奏楽部の演奏は会場を一気に盛り上げ、皆の手拍子は富士北稜の一体感を感じさせてくれました。また、各クラスにおいても、趣向を凝らした様々な演出があり、映像と組み合わせたステージ発表で来場者の目を楽しませてくれました。まだまだ課題はありますが、これからも生徒たちの思い出となる紅稜祭を企画していきたいと考えております。ご協力ありがとうございました。

続いて、第74回山梨県高等学校総合体育大会におきましては、女子総合28位・男子総合29位という結果となりました。現３年生はコロナ禍での入学となった年次であり、活動に大きな制限がかかる中、３年間取り組んできました。これまでと比べ十分に活動が出来ず、もどかしい思いをしてきた部活動でしたが、その様な中でも最大限の準備をして大会に挑みました。

結果として陸上競技部が複数の入賞者を輩出、ヨット部が学校対抗２位、女子バスケットはベスト８と奮闘してくれました。

特に陸上競技部は３種目で関東大会への出場権を獲得、全国大会への出場を目指しています。女子バスケット部は強豪校として、ベスト８以上の座を揺るぎないものとしており、ベスト４定着が期待されています。またヨット部は県の強化指定部として日々のトレーニングに励み、関東大会で更に良い経験を積み上げました。各部とも来年度は、更なる躍進を期待したいと思います。

文化活動においても、全国商業高等学校英語スピーチコンテスト、レシテーション部門で、１年安部井愛瑠奈さんが最優秀賞に輝き、全国大会への出場権を獲得しています。また機械テクノロジー系列で山梨県溶接競技会において３年梶原渓人さんが優勝し、建築デザイン系列でも高校生ものづくりコンテスト（木材加工部門）で３位となり、関東大会に出場します。美術部も各種大会で賞を獲得、商業実務競技部は競技会に出場し、今後につながる取り組みをして頑張ってくれました。

部活動実績

野球部
春季大会
２回戦　０対７　山梨学院
夏季大会
２回戦　６対12　甲府南

男子サッカー部
県高校総体
２回戦　３対０　都留興譲館
インターハイ県予選大会
１回戦　０対７　甲府東
１年生大会（富士河口湖高校と合同チームで参加）
１回戦　０対５　青洲
１回戦　０対２　日川

陸上競技部
県高校総体
男子１１０ｍＨ　６位　井上　顕翔
男子４００ｍＨ　５位　井上　顕翔
女子走高跳　２位　米山いおり
県高校選手権大会
女子３０００ｍ障害　１位　渡邊　美咲
女子走高跳　６位　米山いおり
県高校学年別大会
少年男子Ａ４００ｍＨ　３位　井上　顕翔
少年女子共通　２位　米山いおり
関東高校大会
女子走高跳　出場　米山いおり
関東陸上競技選手権大会
女子３０００ｍＳＣ　出場　渡邊　美咲
女子走高跳　出場　米山いおり

女子ソフトボール部
県高校春季大会
１回戦　０対20　山梨学院
県高校総体
１回戦　３対10　甲斐清和
インターハイ県予選大会
１回戦　21対１　塩山
２回戦　８対９　甲府商業
教育大会
１対15　甲府昭和

男子バスケットボール部
県高校総体
１回戦　甲府昭和　75対79
インターハイ県予選大会
２回戦　甲府商業　82対53
１回戦　日本航空　63対113

女子バスケットボール部
県高校総体
予選トーナメント
１回戦　白根　１８０対29
２回戦　富士河口湖　50対47
３回戦　甲府昭和　49対56
５位決定戦　61対65
７位決定戦　都留　７位決定戦　北杜　66対32

卓球部
県高校総体
男子
１回戦　３対０　山梨学院
２回戦　３対０　甲府商業
３回戦　０対３　日本航空
５～８位順位決定戦　２対３　日大明誠
７～８位順位決定戦　３対０　甲府西
女子
７位
１回戦　１対３　吉田
インターハイ県予選大会
男子シングルス　０対３　日本航空
堀内琳雅　３回戦敗退
女子シングルス
宮下未輝　０対３　甲府商業
３回戦敗退
渡邊萌花　０対３　日本航空
男子ダブルス
羽田・渡邊優　０対３　都留興譲館
３回戦敗退
高橋・荒井　１対３　甲府商業
女子ダブルス
船久保琴・流石　０対３　甲府商業
３回戦敗退
渡邊萌・宮城　０対３　甲府商業
４回戦敗退
男子学校対抗
２回戦　０対３　富士河口湖
３回戦　０対３　甲府工業

女子バレーボール部
県高校総体
１回戦　０対２　吉田
インターハイ県予選大会
１回戦　０対２　日川

弓道部
県高校総体
男子個人
佐藤大雅　５中　予選通過
男子団体
８中チーム　２中　予選通過
男子団体
５中チーム　２中　予選通過
計18中チーム
計11中　予選敗退
トーナメント
１回戦　対甲府第一高校
女子団体
４中チーム　計13Ａチーム　予選敗退
女子団体
３中チーム　計12Ｂチーム　予選敗退
インターハイ県予選大会
男子団体
７中予選敗退
関東高校個人選手権
26中予選敗退

剣道部
県高校総体
男子個人戦
幡島舞杜　コーメ　甲府南
延長戦　コーメ
山中俊輔　ーメメ　甲府工業
女子個人戦
加々美花音　ーココ　北杜
初戦敗退　ーメ　甲府昭和
三浦楓歌　ーメメ　甲府商業
三浦楓歌　ベスト32
男子団体戦
０対５　北杜
女子団体戦
２対１　吉田
０対５　甲府商業
５～８位決定戦
０対４　河口湖
５対０　韮崎
８位入賞
インターハイ県予選大会
男子個人戦　ベスト32
女子個人戦　ベスト32
幡島舞杜
三浦楓歌
三浦楓歌

柔道部
全国高校柔道大会県予選
女子個人　ベスト４

自転車部
県高校総体
男子スプリント　６位　郷田　愛斗
渡邊　恭大　８位
３ｋｍインディヴィデュアルパーシュート決勝
渡邊　恭大　８位
郷田　愛斗　11位

ヨット部
県高校総体
男子４２０級　渡邊海翔　第２位
（高村康生・渡邊海翔）
男子学校対抗　第２位

ウエイトリフティング部
山梨県ウエイトリフティング選手権大会
６１ｋｇ級ユース　１位　内田翔空
７３ｋｇ級ユース　１位　堀内大嵩
７３ｋｇ級　１位　富川亘
８１ｋｇ級ユース　４位　富川亘
８１ｋｇ級　１位　堀内大嵩
８９ｋｇ級ユース　２位　堀内亘
８９ｋｇ級ジュニア　２位　丹澤康介
県高校総体
６１ｋｇ級　内田翔空　３位
７３ｋｇ級　堀内大嵩　３位
７３ｋｇ級　富川亘　６位
８９ｋｇ級　丹澤康介　２位
インターハイ県予選大会
７３ｋｇ級　堀内大嵩　２位
８９ｋｇ級　富川亘　６位
インターハイ県予選大会
男子団体　１回戦　１対２　農林
男子ダブルス　松浦珠郎・平塚雄利
選抜大会県予選
男子　藤井勇吹　２中　予選通過
本戦　４中　敗退
女子　小井玲乙奈　２中　予選通過
本戦　０中　敗退

硬式テニス部
県高校総体
男子団体　１回戦　１対２　巨摩
女子団体　１回戦　１対２　巨摩
学年別テニス大会（１年）
男子シングルス
三浦和眞　３回戦敗退
川野恵人　３回戦敗退
廣澤侑也　２回戦敗退
学年別テニス大会（２年）
男子シングルス
新田陸　２回戦敗退
平塚雄利　２回戦敗退
星那美創心　２回戦敗退
高木加也　２回戦敗退
１・２年生チーム対抗
テニス大会
男子団体
２回戦　北稜２対１航空
３回戦　北稜０対３駿台
インターハイ県予選大会
２回戦敗退

ソフトテニス部
関東大会県予選
男子
松川・五味　５対④
松川・五味　０対④　甲府工業
杉本・嶋崎　２対④　甲府東
１回戦敗退
町田・渡邊　１対④　青洲
２回戦敗退
女子
宮下・宮下　④対１　韮崎
宮下・宮下　３対④　甲府東
２回戦敗退
県高校総体
男子
１回戦　北稜②対１　山梨
２回戦　北稜０対③　甲府南
女子
１回戦　北稜１対②　城西
インターハイ県予選大会
男子
渡邊・渡邊　１対④　甲府西
１回戦敗退
羽田・加藤　１対④　甲府商業
１回戦敗退
新人戦
男子個人
渡邊・渡邊　④対２　上野原
渡邊・渡邊　０対④　甲府商業
３回戦敗退

美術部
山梨県高等学校美術・文化祭
最優秀賞　渡邊琴音
優秀賞　羽田明日香

吹奏楽部
山梨県吹奏楽コンクール
高校Ｂ部門　銅賞

放送部
ＹＢＳ杯県下高校放送コンテスト
テレビ番組制作ＰＲ部門出場

書道部
組稜祭オープニングで書道パフォーマンス
高円宮杯日本武道館書道展
第10回県書道パフォーマンス大会　優秀賞
ＹＢＳラジオBloomin
「RADIO High School」生出演
山梨県高校書道展に出品

商業実務部
県高校商業実務競技大会
ワープロ部門　団体４位

その他
【競技会・コンテストの部】
全国商業高校英語スピーチコンテスト
レシテーション部門
最優秀賞　安部井愛瑠奈
（全国大会出場権獲得）
優秀賞　須山　海央
奨励賞　渡邊　理奈
スピーチ部門
奨励賞　大野　政弥
山梨県高等学校溶接競技会
優勝　梶原　渓人
高校生ものづくりコンテスト
山梨大会
木材加工部門　３位　渡辺想

競技会・コンテスト

６月４日、第13回高等学校溶接競技会が行われ、本校代表　機械テクノロジー系列　梶原渓人君（３年）が見事優勝し、７月22日の表彰式で表彰されました。梶原君の作品で特に評価が高かったのは、採点項目の中にあるＸ線検査で「内部欠陥なしが素晴らしい」と評価をいただきました。

令和４年７月６日に、全国商業高等学校英語スピーチコンテスト山梨県予選兼第43回山梨県高等学校芸術文化祭商業部門に本校から５名の生徒が出場し、レシテーション部門において、安部井愛瑠奈さん（１年）が最優秀賞を受賞し、全国大会への出場権を獲得しました。

高校生ものづくりコンテスト関東大会「木材加工部門」山梨県予選会が令和４年７月13日（水）富士北稜高校にて開催。３年５組の渡邊想が第３位に入賞し、県代表として８月19日（金）に関東大会に出場しました。

第22回高校生ものづくりコン
木材加工部門